

# 気象海洋員(1/2)

## 1 仕事の内容

気象海洋員は、海上自衛隊の航空機や艦船を安全、効率的に動かすために必要な気象・海洋に関する観測、観測データの通報、観測資料の整理等を行っています。

気象観測においては、天気や風、視程、気温、雲、気圧などの状態を、海洋観測においては、海水温度、塩分、海流、底質(海底を覆っている物質)、海底地形等の状態を観測します。

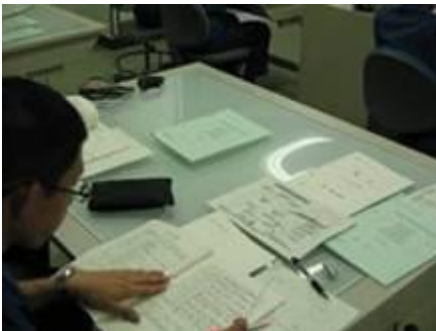
## 2 仕事に就くために

教育隊終了後、船務要員として約1年間護衛艦や航空基地等で勤務した後、第1術科学校の海士気象海洋課程(約5ヶ月)を経て、航空基地や海洋観測艦の気象海洋員として航空部隊や海洋観測艦勤務となります。

## 3 主な勤務地

気象海洋員は、海上自衛隊の陸上部隊(航空基地や地方総監部、警備所など)、艦船で勤務することとなり、これらの部隊は日本のほぼ全域にあります。特に、航空基地には航空機の運航を支援するために、必ず気象海洋員が配置されます。また、海洋観測を専門に行う砕氷艦をはじめ、海洋観測艦や護衛艦にも気象海洋員が乗り組んでいます。主な部隊(勤務地)は次のとおりです。

- (1) 陸上部隊:各地方総監部(横須賀、呉、佐世保、舞鶴、大湊)、第1術科学校等の教育部隊など
- (2) 航空部隊:各航空基地(八戸、大湊、厚木、下総、館山、硫黄島、岩国、小月、徳島、小松島、舞鶴、大村、鹿屋、那覇)
- (3) 艦艇部隊:イージス艦、ヘリコプター搭載艦、海洋観測艦、砕氷艦(しらせ)、練習艦(遠洋航海部隊)



(天気予察)



(天気図を確認中)



(観測資料の整理)

# 気象海洋員(2/2)

## 4 取得可能な資格及び免許

**気象予報士:**気象予報士は誰でも受験できますが、気象海洋員は、気象観測などの実務に携わっているため、受験に必要な知識を習得しやすく、気象予報士国家資格を取得するには有利な職域です。

**測量士補:**海上保安庁の海上保安学校海洋科学課程に入校するチャンス(1~2名/年)があり、この課程を修業すれば測量士補の資格が得られます。

## 5 ライフスタイル(10年間の配置換え等)

1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	6年目	7年目	8年目	9年目	10年目
教育隊(練習員課程等)	護衛艦・航空基地 (船務要員)	第1術科学校 (海士気象海洋課程)	航空基地等勤務 (気象海洋員)	教育隊(初任海曹課程) 3曹への昇任(選抜)	航空基地、艦船 (気象海洋員)				

## 6 先輩からの一言

気象海洋は、私たちが住む地球を知ることが職務の基本です。大変、奥深く興味が広がる仕事でやり甲斐があります。

